

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)		-	-	-
		百貨店（役員）	単価の動き	・12月の歳末景気が後押しをしている。ただ、一時的な影響ではある。
		スーパー（役員）	単価の動き	・ここ数か月の客単価及び平均買上点数が大幅に向上しているわけではないが、3か月平均の数値を比較すると、現状、やや上向きに推移している。これから月末5日間の動向によっては数値が大きく変わってくることもあるが、例年、12月は買上点数が増加する分、売上も増加することになるため、来客数が前年並みに推移していることから、このままやや良い状態で推移する。
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・12月に入り客の購買意欲が増大している。新年を迎える準備のための消費が拡大し、売上が増加している。高額商材も動いている。秋は台風による災害の後遺症で交通機関にも爪痕が残ったが、年末になり鉄道が復旧したこともプラスになっている。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・冬季賞与が前年よりも多く支給され、電化製品の購入などの話を客からよく聞くようになった。
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・冬季賞与が支給された中、お歳暮、クリスマスなどのギフトシーズンを迎えて消費が活発になっている。旅行の受注もようやく動き始めてきている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・台風による被害を受けた影響で9～11月までは旅行の自粛ムードが続いていたが、客の動向や販売量をみると、12月に入ってから徐々に解けてきている。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・前年比が10%ほど良化している。また、このところ、旅行の相談件数も多い。
		タクシー運転手	販売量の動き	・天候不順の影響もあるが、タクシーの稼働が前年を上回る月が続いている。
		タクシー運転手	販売量の動き	・季節柄、売上の伸びる時期であるが、前年と比べても10%近く伸びているため、景気はやや良くなっている。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・商材に対する信頼を得ることができていることもあり、個人需要、法人需要ともに、大都市、地方を問わず道内各地から想定以上の引き合いがみられ、販売量が計画を上回っている。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・11月に来店しそびれた客が、12月になり一気に来店している。
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・金利安、円安、株高の影響で客の投資意欲が高まってきている。住宅関連などの景気もこれから段々と良くなっていくことになる。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・ギフト需要の販売量、客単価とも数値が下がっている。自己購入の際の客単価も前年と比べて低い。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子がいつもと変わらない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・12月に入り、初旬は例年並みであったが、中旬は高齢者を中心に昼間の客が増加したほか、夜間も忘年会などの客が例年以上にみられた。しかし、下旬は商店街の年末大売出しの抽選会場に会場に来場する客がここ2～3年で最も少なかった。これらのことから、景気はやや悪い状態が継続している。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・今年の北海道は大雪の影響で軒並み売上が低迷している。以前からもそうだが、大雪が降ると自宅の除雪や道路事情を考慮して客が外出を控える傾向がある。今年は必ずといっていいほど週末に悪天候となり、12月の繁忙期が大打撃を受けている。また、航空機の欠航が続いたことで観光客も大きく減っている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・年末ではあるが、客が消費を控える動向がみられる。
	一般小売店〔酒〕（経営者）	お客様の様子	・客先の経営者と話す機会が多いが、総じて景気が良くない。客の稼働も少なく、客単価も上がっていないとの話である。12月という特殊な月であるが、年末の季節感が年々薄れてきており、当社の販売にも影響が出てきている。	

百貨店（売場主任）	来客数の動き	・外国人観光客による売上は前年をキープしたが、記録的な大雪の影響が複数回みられたことで、全体の来客数が大きく減少し、クリスマス、歳暮などのギフト商材の購買に影響を与えた。客単価も低下する傾向がみられ、バッグなどから雑貨へのシフトがみられた。天候の影響でアウターや靴の売上は伸張したが、主力の洋服全体にはマイナスとなった。
百貨店（担当者）	来客数の動き	・来客数に改善傾向がみられない。
百貨店（営業販売担当）	来客数の動き	・来客数の減少に加えて、例年がない大雪の影響を受けた。高額商材などの苦戦が続く中、雑貨などの売場も来客数減の影響を受けている。
スーパー（企画担当）	販売量の動き	・野菜の価格高騰がやや落ち着いてきたとはいえ、いまだ続いている中で、客単価の総額があまり変わっていない状況から、魚、肉など、ほかの生鮮食品の買い控えの傾向がみてとれる。
コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・今まで高齢客層に支持されていた大容量の焼酎や清酒が売れなくなってきている一方で、小容量の商材が売れる傾向がみられる。単価の高い商材も売れるようになってきているが、来店頻度の低下、販売量の減少がみられるため、総売上は減っている。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・3か月前と比べて来客数が増えていない。前年と比べても来客数が減っている。
衣料品専門店（店長）	それ以外	・客単価が安定しており、スーツ、コートなどの定番商材の売上構成も変わらないが、今回の大雪で来客数が25%の大幅減となり、厳しい状況となった。
家電量販店（店員）	来客数の動き	・12月後半になり来客数が増えており、にぎわっている。特に大型テレビは前年以上に売れている。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・新型車効果がさほどみられない。
自動車備品販売店（店長）	競争相手の様子	・売上は前年比100%を見込んでいるが、前々年比では90%にとどまっている。タイヤ販売市場も前年比で96%の見通しであり、回復の見込めない状況にある。
その他専門店 [ガソリンスタンド]（経営者）	販売量の動き	・円安、原油価格の高騰により、製品価格が上昇しているものの、現状、影響はみられない。
高級レストラン（経営者）	お客様の様子	・特別景気が上向きになるような材料はみられない。むしろ、北海道に限れば、今年は雪が多いこともあり、客の消費意欲に陰りがみえる。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・販売量は予測をやや落として、ぎりぎり前年並みとなった。企業の団体客が多少みられたが、個人客や家族連れの客が伸びなかった。これだけ食材価格が高騰していれば、家庭の食費も厳しく、仕方がないとも感じる。クリスマスは悪天候のため、市外客のキャンセルが生じており、その分を穴埋めすることができなかった。
観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・近隣アジアからの外国人観光客が低調であるが、減少分を国内からの個人客及びグループ旅行で補填する構図となった。
タクシー運転手	来客数の動き	・12月中旬に当地において50年ぶりの大雪が降った影響で、道路が夜間遅くまで大渋滞となり、車が走れなかったことから、年末の稼ぎ時にタクシーの売上が上がらず、前年を大きく下回った。電話での注文も殺到したが、タクシーの配車もできなかったため、電話配車の売上も前年を大きく下回った。
タクシー運転手	来客数の動き	・外国人観光客の利用がやや好調だが、国内旅行者の利用がやや減少した。
通信会社（社員）	お客様の様子	・集客は横ばい状態で推移している。ただ、前年よりは減少しており、販売量も前年を割り込んでいる。
観光名所（従業員）	来客数の動き	・前年と比較可能な月初めの10日間の利用客数が前年比で約105%であったことから、引き続き好調に推移している。
美容室（経営者）	来客数の動き	・12月はどか雪が2回もあり、記録的な大雪となったため、客足が止まり、その分だけ来客数が減っている。しかし、一時的な現象であるため、景気が下向きになっているとはいえない。
美容室（経営者）	単価の動き	・特殊事情により来客数が減少しているが、客1人当たりの単価は変わっておらず、12月という季節的なにぎわいも感じられる。

	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・分譲マンションの購入を急ぐ客が少ない。その一方で買い控えている客もみられず、方向感に乏しい状態にある。	
	一般小売店〔土産〕 (経営者)	来客数の動き	・12月は2度の大雪で交通が混乱し、このことが売上に大きく影響した。	
	百貨店(販売促進担当)	来客数の動き	・依然として来客数の減少が続いている。歴史的な荒天の影響で主要交通網の混乱などもあり、市内景況感が冷え込んでいる。	
	スーパー(店長)	販売量の動き	・来客数の落ち込みがそのまま販売点数や売上の減少につながっている。12月ということを考えれば、3か月前と比較して突出した売上でなければならないが、段々と平月との差が小さくなってきている。	
	スーパー(店長)	来客数の動き	・前月から徐々に来客数が減少している傾向がみられる。特に衣料品の動向が悪い。	
	スーパー(店長)	来客数の動き	・50年ぶりの大雪の影響が大きい。道路状況が悪く、交通渋滞もみられたことが、来客数減少の要因となっている。また、利便性の良い駅前立地店舗など、競争店の影響も若干みられる。	
	コンビニ(オーナー)	来客数の動き	・12月の売上は前年比94%であった。おせちの予約は安い商材にシフトする人が多く、予約金額は前年から10%のダウンとなった。クリスマスケーキは予約数が前年から19%のダウンとなった。	
	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・北海道という土地柄、冬を迎えて客の出控えということも考えられるが、会社全体でみても、店全体でみても車の販売台数が相当下火になってきている。新型車効果も少しずつ薄れている。	
	その他専門店 〔医薬品〕(経営者)	お客様の様子	・購買層の二極化が感じられ、健康関連産業としてやや危機感を抱いている。購買客層の高齢化を考えると決して楽観できない状況にある。	
	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・前月に続き、予約団体客が前年を上回ったものの、割合の大きな個人客は前年を大幅に下回った。ランチの時間帯に満席になることもあまりなかった。また、季節的に外国人が目立つようになってきている。	
	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・景気回復がみられない中、先行き不安が増してきており、消費行動が停滞気味になっている。	
	旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・11月からの降雪の影響により農業関係者の収穫に影響が出ている。また、12月は大雪による航空機欠航が多発しており、観光、ビジネスともに伸びがみられない。	
	旅行代理店(従業員)	来客数の動き	・来客数も少ないが、実際の販売額も前年と比較すると7割程度にとどまっている。鉄道が12月22日まで運休していた影響もあるが、それを差し引いても悪い状態である。	
	タクシー運転手	お客様の様子	・当業界は季節に左右されやすい業界であり、12月に入り積雪がない状況の中で、客の動きがみられない。観光客が激減している時期と重なっているため、3か月前と比較すると1.5%~2%弱の落ち込みであり、金額にすると1千万円以上の落ち込みである。今の状況が年明けまで長引けば、年度末には厳しい状況になりそうだ。	
	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕 (従業員)	来客数の動き	・例年と同様に冬型の気候の影響で、フェリーの欠航日数が増加している。	
	×	コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・年末セールでの客の反応は良かったが、それ以外では売上、来客数の減少が続いている。不漁の影響で客がお金を使わない状況が続いている。
	×	観光型ホテル (役員)	来客数の動き	・外国人観光客、特に台湾からの団体客の減少が目立ち、全体の来客数が減少している。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・今年度に入り、運送収入は微減状態で推移していたが、ここにきて大幅に下がり始めた。
企業 動向 関連 (北海道)	-	-	-	
	金融業(従業員)	取引先の様子	・個人消費は雇用、所得環境の改善を背景に底堅く推移している。住宅投資も低金利によって堅調に推移している。台風などの天候不順による農水産物の高騰に伴う食料品製造業の収益悪化や宿泊業の予約キャンセルなど、負の側面もみられるが、一方で災害復旧工事の執行によって建設関連業種で業況が改善している。総じてみれば道内景気は緩やかな改善傾向にある。	

	その他サービス業〔建設機械リース〕(支店長)	取引先の様子	・台風被害の復旧工事の発注があり、多忙なユーザーが多い。	
	食料品製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・受注状況は3か月前と比べて特に変化なく推移している。	
	建設業(従業員)	取引先の様子	・地方の大型総合病院で風邪などの季節的な病気による外来患者数が減少しており、医業収入が減少している。	
	輸送業(支店長)	受注量や販売量の動き	・この時期としてはまずまずの取扱量となり、売上増が見込まれるが、大雪の影響により、トラックの回転率を上げるために高速利用を自費で賄うなど、利益面では苦戦が続いており、3か月前と変わらない状況にある。	
	輸送業(営業担当)	取引先の様子	・8月の台風以降、大きな台風の影響もなく、物流は順調に動いている。農作物不作の影響も年内は顕在化しておらず、ほかの貨物も例年とほぼ変わらず年末需要にあわせて動いている。	
	通信業(営業担当)	取引先の様子	・取引先の業績、現況から、景気はやや良い状況が継続している。	
	司法書士	取引先の様子	・3か月前は若干回復傾向にあると判断していたが、それ以後については不動産取引や建物建築などに大きな変化がみられず、低水準のまま推移している。	
	司法書士	取引先の様子	・今年は台風の直撃による被害で、物流や農作物などに甚大な被害が発生した。野菜などの食品が大幅に値上がりしたことが消費行動などにも少なからず影響しており、高額な買物となる不動産や土地の購入や建物の新築などに積極的に投資する状況とはなっていない。	
	コピーサービス業(従業員)	受注価格や販売価格の動き	・例年であれば12月決算の客先において、期末での物品購入が結構みられるが、今年は購入をかなり抑えている傾向がつかえる。	
	その他サービス業〔建設機械レンタル〕(総務担当)	受注量や販売量の動き	・売上は前年をクリアしているが、大きな伸びではない。	
	その他非製造業〔鋼材卸売〕(役員)	受注量や販売量の動き	・客先の鉄骨加工量が順調に推移していることで、当社の販売量も安定している。	
	家具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・天候不順の影響により客の動きが低調に推移している。また、地元では大型百貨店撤退の影響を受けて、全体的に消費マインドが落ちている。	
	×	食料品製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・3か月前の9月の販売量は前年を19%上回ったが、12月はほぼ前年並みであった。
雇用 関連 (北海道)		人材派遣会社(社員)	求人数の動き	・事務系の派遣依頼が増加しているほか、販売促進に関連する派遣需要も旺盛である。求人ニーズも高まっており、特に営業、経理、IT関連で要望が強い。景気回復により企業の業績が上向き、採用を積極的に行っているためとみられる。ただ、登録者数が横ばいで推移しており、すべての求人に対して紹介ができていない状況にある。
		求人情報誌製作会社(編集者)	雇用形態の様子	・新卒の内定率が高いが、中小企業まで人材が行き渡っていないためか、ここに来て正社員の中途採用意欲が高まってきている。また、飲食店やコンビニ、スーパーなどのアルバイト、パートも前年より求人が増えている。
		新聞社〔求人広告〕(担当者)	それ以外	・3か月前は台風の影響を受けて景気後退の状況にあったが、台風被害からの復旧作業がやや前進したこともあり、消費者のマインドが上向いてきており、それに伴って雇用情勢も上向いてきている。
		求人情報誌製作会社(編集者)	求人数の動き	・9月以降、台風被害の影響が続いていたが、ここに来て鉄道の復旧に加えて、道路開通にも目途がついたこともあり、次年度への期待が膨らんできている。求人数の減少にも歯止めがかかってきている。
		求人情報誌製作会社(編集者)	求職者数の動き	・少子高齢化や若年層の市外流出が続く中、飲食、アパレルなどの新規事業所の開設が増加していることから、どの企業においてもサービスを維持していく上での人材が不足している状態が続いている。

	職業安定所（職員）	求人数の動き	・有効求人倍率が6年9か月連続で前年を上回る中で、新規求人数が前年から0.2%減少している。また、月間有効求人数が前年から0.8%の増加と大きな変動がみられないことから、新規求職者数及び月間有効求職者の減少傾向が続いている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間有効求人数が前年比マイナス8.7%と4か月連続で前年を下回り、有効求人倍率も3か月連続で前年を下回った。ただ、有効求人倍率が1倍を超えていることから、雇用情勢は引き続き改善している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・月間有効求職者数が増加しているものの、月間有効求人数が前年を大きく上回っていることから、有効求人倍率が1倍を超える状況が続いている。
	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・北海道新幹線開業後、当地の観光業は好調だが、冬場の弱さを克服するまでには至っていない。
	学校〔大学〕 （就職担当）	求人数の動き	・道内のどの企業も新卒採用枠を充足していないにもかかわらず、未内定学生の動きの悪さから、採用活動を断念し、翌年3月から始まる現3年生の採用活動にシフトする傾向が多くみられる。この状況が続くと未内定のまま卒業を迎える学生が続出することになり、今後の混乱が懸念される。
x	-	-	-